

## 言語学サブプログラム

## 専門基礎科目(言語学)

| 科目番号    | 科目名   | 授業方法 | 単位数 | 標準履修年次 | 実施学期 | 曜時間 | 担当教員 | 授業概要  | 備考                      |
|---------|-------|------|-----|--------|------|-----|------|---|-------------------------|
| OAA3003 | 言語対照論 | 1    | 1.0 | 1・2    |      |     |      | 多様性と普遍性の観点から言語を対照することによって、言語間の違い、個別言語の深層を探る手法を考える。      | 西暦偶数年度開講。<br>対面         |
| OABA401 | 言語理論  | 1    | 1.0 | 1・2    |      |     |      | いくつかの構文の分析を通じて、現代の言語理論に対する理解を深め、言語研究における言語理論の役割について考える。 | 教室：人社棟A520<br>西暦偶数年度開講。 |

## 専門科目(言語学)

| 科目番号    | 科目名    | 授業方法 | 単位数 | 標準履修年次 | 実施学期 | 曜時間 | 担当教員        | 授業概要  | 備考  |
|---------|--------|------|-----|--------|------|-----|-------------|---|---|
| OABAG10 | 歴史言語学A | 1    | 1.0 | 1・2    | 春AB  | 火5  | 宮川 創, 山岡 翔  | 世界のさまざまな言語を例に、伝統的な歴史言語学の方法論の基礎を学ぶ。具体的には、(1) 歴史言語学の研究史、(2) 音法則[概論]、(3) 音法則[合流と分裂]、(4) 音法則[同化]、(5) 音法則[弱化]、(6) 音法則[その他の変化]、(7) 借用、(8) 類推、(9) 内的再建、(10) 比較による祖語の再建を論じる。毎回の授業では講義を行った上で、それをふまえて受講生が自ら例題を随時的に分析してみることににより、言語変化の諸相、規則性、要因等に対する理解を深めていく。                   | O2DT901と同一。<br>対面                             |
| OABAG11 | 歴史言語学B | 1    | 1.0 | 1・2    | 秋AB  | 火5  | 宮川 創, 山岡 翔  | 世界の様々な言語の事例を観察しながら、形態変化、統語変化、言語接触などのテーマを中心に、歴史言語学の基礎を学ぶ。  | O2DT902と同一。<br>対面<br>状況によってはオンラインに変更する可能性がある。 |
| OABAG12 | 生成統語論A | 2    | 1.0 | 1・2    |      |     |             | 生成統語論の観点から言語現象を考察する。具体的には、英語および日本語を中心とするいくつかの言語から題材をもとめ、生成統語論的な分析の実践例を数多く見ることを通して、研究の目的および手法を理解し、自らが生成統語論の立場で新たな文法現象の発掘、分析、議論ができるようになることを目指す。この授業では、主に句構造、形式素性、移動現象にかかわる問題に焦点をあてる。  | 西暦偶数年度開講。<br>O2DT903と同一。<br>教室は人社A520         |
| OABAG13 | 生成統語論B | 2    | 1.0 | 1・2    |      |     |             | 生成統語論の観点から言語現象を考察する。具体的には、英語および日本語を中心とするいくつかの言語から題材をもとめ、生成統語論的な分析の実践例を数多く見ることを通して、研究の目的および手法を理解し、自らが生成統語論の立場で新たな文法現象の発掘、分析、議論ができるようになることを目指す。この授業では、主に構造格、束縛とコントロール、省略現象にかかわる問題に焦点をあてる。   | 西暦偶数年度開講。<br>O2DT904と同一。<br>教室は人社A520         |
| OABAG14 | 認知意味論A | 2    | 1.0 | 1・2    | 春AB  | 月3  | 金谷 優, 和田 尚明 | 言語の形式と意味の対応関係にかかわる問題について、英語と日本語を比較対照しながら認知意味論的な観点から考察する。認知意味論的観点というのは、言語が語る意味の世界は客体世界そのものではなく、人間の目を通した世界であり、したがって言語の意味を考えるとときには、人間がものごとをどのように理解し、経験するかという視点が不可欠とするものである。この授業では、特に、言語と認知の関係に関わる様々な語彙・構文現象に焦点をあてる。  | 西暦奇数年度開講。<br>O2DT905と同一。<br>対面<br>人社A520      |
| OABAG15 | 認知意味論B | 2    | 1.0 | 1・2    | 秋AB  | 月3  | 和田 尚明, 金谷 優 | 言語の形式と意味の対応関係にかかわる問題について、英語と日本語を比較対照しながら認知意味論的な観点から考察する。認知意味論的観点というのは、言語が語る意味の世界は客体世界そのものではなく、人間の目を通した世界であり、したがって言語の意味を考えるとときには、人間がものごとをどのように理解し、経験するかという視点が不可欠とするものである。この授業では、特に、文法と語用論の関係や言語使用に関わる様々な言語現象に焦点をあてる。   | 西暦奇数年度開講。<br>O2DT906と同一。<br>対面<br>人社棟A520     |
| OABAG16 | 対照言語学A | 1    | 1.0 | 1・2    | 春AB  | 木6  | 宮腰 幸一       | このコースは、対照言語学の基礎的知識と実践的研究能力の修得を目標とする。まず、主に日本語と英語の身近な具体例を出発点に、いくつかの事例研究の概観・検討を通して対照言語学の射程・目標・方法・意義・成果などを学びながら、受講者それぞれが自分のテーマで対照言語学的研究を試み、実践的な観察・分析・実証・立論能力を養う。その後、各受講者に研究成果を順番に発表してもらい、その内容についてクラス全員で議論する。基本的に、前半は講義形式、後半は演習/セミナー形式で授業を進めるが、その割合は受講者の希望や進展状況に応じて調整する。 | O2DT907と同一。<br>対面                             |

|         |           |   |     |     |     |    |             |  |  |
|---------|-----------|---|-----|-----|-----|----|-------------|--|--|
| OABAG17 | 対照言語学B    | 1 | 1.0 | 1・2 | 秋AB | 木6 | 宮腰 幸一       | 春学期の対照言語学Aに引き続き、対照言語学の基礎的知識と実践的研究能力の修得を目指し、前半は講義形式、後半は演習/セミナー形式で授業を進める。  | 02DT908と同一。<br>対面  |
| OABAG18 | 認知意味論C    | 2 | 1.0 | 1・2 | 春AB | 木5 | 金谷 優, 和田 尚明 | 認知意味論に関して最近の理論的發展やデータの発掘についての新しい知見および分析方法について、最新の論文の報告および教員および他の受講生との討論を通して、自身の研究に活かす。さらに深い議論を行うことができるようになることを目指す。   | 「英語統語論C」（木曜4限）を合わせて履修することが必要。<br>西暦奇数年度開講。<br>対面<br>人社棟A520              |
| OABAG19 | 認知意味論D    | 2 | 1.0 | 1・2 | 秋AB | 木5 | 和田 尚明, 金谷 優 | 認知意味論に関して最近の理論的發展やデータの発掘についての新しい知見および分析方法について、最新の論文の報告および教員および他の受講生との討論を通して、自身の研究に活かす。さらに深い議論を行うことができるようになることを目指す。この授業では、より踏み込んだ討論を行い、特に、英語と日本語の比較を中心に、通言語的な共通点と相違点を示す現象に焦点をあてる。   | 「英語統語論D」（木曜4限）を合わせて履修することが必要。<br>西暦奇数年度開講。<br>対面<br>人社棟A520              |
| OABAG20 | 音韻論A      | 1 | 1.0 | 1・2 |     |    |             | 言語の音声・音韻に関する研究について理解するうえで必要とされる専門的な知識および技術を身につけることを目標とする。記述・理論にわたる音韻論の基礎的な概念および知見について、論文講読を通して理解を深めるとともに、日本語を中心とする音韻現象の分析事例を学びながら、音韻研究の方法についての理解を図る。その理解に立って、実際の分析課題に受講者各自が取り組み、その成果を発表するとともに、相互の討論を通して合理的な音韻分析のあり方について考察する。   | 西暦偶数年度開講。<br>02DT909と同一。<br>対面<br>対面を原則とするが、状況次第でオンライン（同時双方向）に変更することもある。 |
| OABAG21 | 音韻論B      | 1 | 1.0 | 1・2 |     |    |             | 音韻論の専門的な事項の理解に基づいて音韻分析の手法を身につけることを目標とする。論文講読を通して理解を深めるとともに、日本語を中心とする音韻現象の分析事例を学びながら、音韻論的考察の方法について理解を深める。その理解に立って、実際の分析課題に受講者各自が取り組み、その成果を発表するとともに、相互の討論を通して合理的な音韻分析・韻律分析のあり方について考察する。  | 西暦偶数年度開講。<br>02DT910と同一。<br>対面<br>対面を原則とするが、状況次第でオンライン（同時双方向）に変更することもある。 |
| OABAG22 | 形態論A      | 1 | 1.0 | 1・2 | 春AB | 火4 | 田川 拓海       | 屈折形態論に関する研究史を概観し、それぞれの理論・モデルがどのような点において対立しているのかを見るとともに、主要な問題・対立点について整理する。次に、同形性、補充、ゼロ形態等、屈折形態論研究における重要な用語・概念について、どのような言語現象の分析において問題になるのか具体的に検討し、各理論・モデルを用いた分析の利点・難点について考える。対象言語は日本語・英語を中心とするが、必要に応じて様々な言語を取り上げる。               | 西暦奇数年度開講。<br>02DT911と同一。<br>対面<br>人社A520                                 |
| OABAG23 | 形態論B      | 1 | 1.0 | 1・2 | 秋AB | 火4 | 田川 拓海       | 複合を含む派生形態論に関する研究史を概観し、それぞれの理論・モデルがどのような点において対立しているのかを見るとともに、主要な問題・対立点について整理する。次に、同音異義性・類義性・多義性、阻止、項構造等、派生形態論研究における重要な用語・概念について、どのような言語現象の分析において問題になるのか具体的に検討し、各理論・モデルを用いた分析の利点・難点について考える。対象言語は日本語・英語を中心とするが、必要に応じて様々な言語を取り上げる。 | 西暦奇数年度開講。<br>02DT912と同一。<br>対面<br>人社A520                                 |
| OABAG24 | 音声学A      | 1 | 1.0 | 1・2 |     |    |             | 音声学・韻律に関する実験研究を紹介する。   | 西暦偶数年度開講。<br>02DT913と同一。<br>対面   |
| OABAG25 | 音声学B      | 1 | 1.0 | 1・2 |     |    |             | 音声学と他の言語学の分野とのインターフェースに注目し音声学研究を行う。  | 西暦偶数年度開講。<br>02DT914と同一。<br>対面   |
| OABAG30 | 日本語文法論IA  | 1 | 1.0 | 1・2 |     |    |             | 現代日本語文法の文法カテゴリーについて、これまでの研究を踏まえ、さらにどのような課題があるか考察し、現代日本語文法の諸現象に関して、課題発見型のアプローチを行う能力を身につける。  | 西暦偶数年度開講。<br>02DT921と同一。<br>オンライン（同時双方向型）                                |
| OABAG31 | 日本語文法論IB  | 1 | 1.0 | 1・2 |     |    |             | 現代日本語文法と言語の機能などがどのように関わるか、複合的な観点と応用的な観点から考察し、現代日本語の文法について様々な角度から、課題解決型のアプローチを行う能力を身につける。   | 西暦偶数年度開講。<br>02DT922と同一。<br>オンライン（同時双方向型）                                |
| OABAG32 | 日本語文法論IIA | 1 | 1.0 | 1・2 | 春AB | 金2 | 橋本 修, 石田 尊  | 日本語文法の記述的研究の方法論について学ぶとともに、理論的研究との関わりについて考察し、日本語文法の記述的研究の現状と課題について理解を深める。   | 西暦奇数年度開講。<br>02DT923と同一。<br>対面   |

|         |           |   |     |     |     |    |              |   |   |
|---------|-----------|---|-----|-----|-----|----|--------------|---|---|
| OABAG33 | 日本語文法論IIB | 2 | 1.0 | 1・2 | 秋AB | 金2 | 橋本 修, 石田 尊   | 現代日本語文法の諸現象に関する受講者各自の研究発表と討論を通して、記述的研究の方法論を学び、データを観察、記述する能力を養う。具体的には、文法の記述と内省やコーパスの関係について考察した上で、格、フォイス、テンス・アスペクト、修飾、とりたて、複文、モダリティなどの文法現象の中から課題を取り出し、それぞれの記述に関わる問題を明らかにした上で、受講者が設定した研究課題に関して議論を行う。   | 西暦奇数年度開講。<br>02DT924と同一。<br>対面                      |
| OABAG40 | 日本語談話論A   | 1 | 1.0 | 1・2 | 春AB | 金4 | 澤田 浩子        | 本科目は、日本語の談話(話し言葉)を対象に、分析に必要な理論や基礎的な概念を習得し、データを分析する力を身につけることを目標とする。さらに、分析により得られた知見を言語教育や隣接分野に応用するための視野を身につける。具体的には、「発話行為」「語りの構造」「会話の開始と終結」「スタイルシフト」などの概念を、論文などを通じて最新の研究動向を踏まえて紹介する(第1回~第5回)。その上で、データ収集と分析の方法を提示し、受講者による実践を交えて理解を深める(第6回~第8回)。授業の最後には、日本語教育や国語教育、文法研究など隣接分野との関連を考え、ディスカッションを行う(第9,10回)。 | 西暦奇数年度開講。<br>02DT927と同一。<br>対面<br>教室  人社A520        |
| OABAG41 | 日本語談話論B   | 1 | 1.0 | 1・2 | 秋AB | 金4 | 澤田 浩子        | 本科目は、日本語の談話(書き言葉)を対象に、分析に必要な理論や基礎的な概念を習得し、データを分析する力を身につけることを目標とする。さらに、分析により得られた知見を言語教育や隣接分野に応用するための視野を身につける。具体的には、「ジャンル」「文体」「結束性」「コロケーション」などの概念を、論文などを通じて最新の研究動向を踏まえて紹介する(第1回~第5回)。その上で、データ収集と分析の方法を提示し、受講者による実践を交えて理解を深める(第6回~第8回)。授業の最後には、日本語教育や国語教育、文法研究など隣接分野との関連を考え、ディスカッションを行う(第9,10回)。         | 西暦奇数年度開講。<br>02DT928と同一。<br>対面<br>教室  人社A520        |
| OABAG44 | 古典日本語学A   | 1 | 1.0 | 1・2 | 春AB | 木3 | 橋本 修, 菊池 そのみ | 文献資料から日本語史をたどり、古典日本語、特に中世・近世の日本語を考察する。具体的には江戸期刊行の版本狂言記(万治三(1660)年刊行)を講読し、狂言という芸能の言語を通して、古典日本語について考察する。日本語史上の中世・近世の位置付けからスタートし、狂言の歴史を映像を使って確認したうえで、版本のコピーを実際に読み解き、文献資料の扱い方、語学的な問題のとらえ方、狂言という芸能に関する知識など、日本語史研究のための基本的な事項も確認する。  | 西暦奇数年度開講。<br>02DT929と同一。<br>対面<br>状況次第でオンラインの可能性もある |
| OABAG45 | 古典日本語学B   | 1 | 1.0 | 1・2 |     |    |              | 日本語史の資料としての狂言台本の価値を考え、あらためて中世から近世への日本語の変遷との関わりを確認する。狂言や古典芸能の基礎知識をふまえて、江戸期の版本狂言記と諸流派の狂言台本の詞章を詳しく比較していく。可能な場合は実演映像も含めて、詞章の異同を検証し日本語史上の問題としてどのように捉えるべきか、具体例から考えていく。受講者にも諸台本の読み比べを行ってもらい、様々な観点から言語事象を捉える練習とする。  | 西暦偶数年度開講。<br>02DT930と同一。<br>対面                      |
| OABAG50 | 英語統語論A    | 2 | 1.0 | 1・2 | 春AB | 月4 | 島田 雅晴, 山村 崇斗 | この科目では英語で書かれた統語論、理論言語学の著作・論文を読みながら、内容を適切に把握する訓練を行い、統語論研究の基礎知識と方法論を身につける演習を行う。特に本授業では、受講者が自分の専門分野に関わる英語論文を取り上げて紹介したり、自分の研究の進捗状況を教員・院生全員でより発展的な討論を行う。中心テーマは「機能語・機能範疇」とする。   | 西暦奇数年度開講。<br>02DT941と同一。<br>対面<br>人社棟A520           |
| OABAG51 | 英語統語論B    | 2 | 1.0 | 1・2 | 秋AB | 月4 | 島田 雅晴, 山村 崇斗 | 近年の英語統語論は生成文法理論の下で発展してきており、その考え方や研究手法はこれから言語研究を学ぶ者には基本となるものである。また、英語で書かれた著作を深く理解し、自分の考えを英語で発信していくための英語力も必須である。このような考えのもと、この科目では英語で書かれた統語論、理論言語学の著作・論文を読みながら、内容を適切に把握する訓練を行い、統語論研究の基礎知識と方法論を身につける演習を行う。中心テーマは「英語と他言語との比較」とする。  | 西暦奇数年度開講。<br>02DT942と同一。<br>対面<br>人社棟A520           |

|         |         |   |     |     |     |    |              |   |   |
|---------|---------|---|-----|-----|-----|----|--------------|---|---|
| OABAG52 | 英語統語論C  | 1 | 1.0 | 1・2 | 春AB | 木4 | 島田 雅晴, 山村 崇斗 | この科目では英語で書かれた統語論、理論言語学の著作・論文を読みながら、内容を適切に把握する訓練を行い、統語論研究の基礎知識と方法論を身につける演習を行う。特に本授業では、受講者が自分の専門分野に関わる英語論文を取り上げて紹介したり、自分の研究の進捗状況を教員・院生全員でより発展的な討論を行う。中心テーマは「機能語・機能範疇」とする。                         | 「認知意味論C」（木曜5限）を合わせて履修することが必要。西暦奇数年度開講。対面<br>人社棟A520   |
| OABAG53 | 英語統語論D  | 1 | 1.0 | 1・2 | 秋AB | 木4 | 島田 雅晴, 山村 崇斗 | この科目では英語で書かれた統語論、理論言語学の著作・論文を読みながら、内容を適切に把握する訓練を行い、統語論研究の基礎知識と方法論を身につける演習を行う。特に本授業では、受講者が自分の専門分野に関わる英語論文を取り上げて紹介したり、自分の研究の進捗状況を教員・院生全員でより発展的な討論を行う。中心テーマは「英語と他言語との比較」とする。                       | 「認知意味論D」（木曜5限）を合わせて履修することが必要。西暦奇数年度開講。対面<br>人社A520    |
| OABAG54 | 英語意味論 A | 2 | 1.0 | 1・2 |     |    |              | 認知言語学や構文文法を中心とした、現代英語をめぐる様々な意味論的アプローチの研究動向を探る。この授業では、特に、形式と意味機能の対応関係や認知と比喩の関係を中心に扱い、主観性に基づく意味論を基にした分析方法について考察する。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表内容を基に批判的検討を加え、授業参加者による討論を行なう。                       | 西暦偶数年度開講。O2DT943と同一。対面<br>教室は人社A520                   |
| OABAG55 | 英語意味論B  | 2 | 1.0 | 1・2 |     |    |              | 語用論研究や言語使用に関する日英語比較を中心とした、現代英語をめぐる様々な意味・語用論的アプローチの研究動向を探る。この授業では、特に、語用論・言語使用と意味機能の関係を扱い、代表的な意味論・語用論に関する理論についても触れる。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表内容を基に批判的検討を加え、授業参加者による討論を行なう。                     | 西暦偶数年度開講。O2DT944と同一。対面<br>教室は人社A520                   |
| OABAG56 | 英語意味論C  | 2 | 1.0 | 1・2 |     |    |              | 認知言語学や構文文法を中心とした、現代英語をめぐる形式と意味機能の対応関係や認知と比喩の関係に関して、最新の論文の報告および教員および他の受講生との討論を通して、自身の研究に活かすさらに深い議論を行うことができるようになることを目指す。  | 「生成統語論C」（木曜4限）を合わせて履修することが必要。西暦偶数年度開講。対面<br>教室は人社A520 |
| OABAG57 | 英語意味論D  | 2 | 1.0 | 1・2 |     |    |              | 認知言語学や構文文法を中心とした、現代英語をめぐる語用論・言語使用と意味機能の関係に関して、最新の論文の報告および教員および他の受講生との討論を通して、自身の研究に活かすさらに深い議論を行うことができるようになることを目指す。   | 「生成統語論D」（木曜4限）を合わせて履修することが必要。西暦偶数年度開講。対面<br>教室は人社A520 |
| OABAG60 | 生成統語論C  | 1 | 1.0 | 1・2 |     |    |              | この科目では英語で書かれた統語論、理論言語学の著作・論文を読みながら、内容を適切に把握する訓練を行い、生成統語論研究の基礎知識と方法論を身につける演習を行う。特に本授業では、受講者が自分の専門分野に関わる英語論文を取り上げて紹介したり、自分の研究の進捗状況を教員・院生全員でより発展的な討論を行う。この授業では、主に句構造、形式素性、移動現象にかかわる問題に焦点をあてる。      | 「英語意味論C」（木曜5限）を合わせて履修することが必要。西暦偶数年度開講。対面<br>教室は人社A520 |
| OABAG61 | 生成統語論D  | 1 | 1.0 | 1・2 |     |    |              | この科目では英語で書かれた統語論、理論言語学の著作・論文を読みながら、内容を適切に把握する訓練を行い、生成統語論研究の基礎知識と方法論を身につける演習を行う。特に本授業では、受講者が自分の専門分野に関わる英語論文を取り上げて紹介したり、自分の研究の進捗状況を教員・院生全員でより発展的な討論を行う。この授業では、主に構造格、束縛とコントロール、省略現象にかかわる問題に焦点をあてる。 | 「英語意味論D」（木曜5限）を合わせて履修することが必要。西暦偶数年度開講。対面<br>教室は人社A520 |
| OABAG66 | ドイツ語学A  | 2 | 1.0 | 1・2 |     |    |              | 現代ドイツ語の特徴を、語彙、文法ならびに語史の観点から明らかにする。また、必要に応じて日本語や英語などとドイツ語を比較対照し、ドイツ語ないしゲルマン語が持つ個別的特徴と、人間言語が持つ普遍的特徴について、記述的、理論的ならびに通時的ないし歴史的な視点から考察を行う。   | 西暦偶数年度開講。O2DT951と同一。対面                                |
| OABAG67 | ドイツ語学B  | 2 | 1.0 | 1・2 |     |    |              | 現代ドイツ語の特徴を、意味論的ならびに語用論的な観点から明らかにする。また、必要に応じて日本語や英語などとドイツ語を比較対照し、ドイツ語ないしゲルマン語が持つ個別的特徴と、人間言語が持つ普遍的特徴について、記述的、理論的ならびに通時的ないし歴史的な視点から考察を行うことになる。   | 西暦偶数年度開講。O2DT952と同一。対面                                |
| OABAG68 | ドイツ語学C  | 1 | 1.0 | 1   | 春AB | 火2 | 大矢 俊明        | ドイツ語で書かれた文献を精読しながら、ドイツ語ないしゲルマン系言語の体系と使用の関連について考察する。   | 西暦奇数年度開講。対面   |

|         |        |   |     |     |     |    |        |   |                                |
|---------|--------|---|-----|-----|-----|----|--------|---|--------------------------------|
| OABAG69 | ドイツ語学D | 1 | 1.0 | 1・2 | 秋AB | 火2 | 住大 恭康  | ドイツ語で書かれた文献を精読しながら、ドイツ語ないしゲルマン語と他言語を比較対照する際の問題点を考察する。   | 西暦奇数年度開講。<br>対面                |
| OABAG70 | 中国語学A  | 1 | 1.0 | 1・2 |     |    |        | 中国語の文法研究に関する優れた論文を演習形式で読み進めながら、中国語の諸現象について考える。文法現象に表れた中国語の事態把握の特徴を他言語(主に日本語)との対照を通して検討する。中国各地の方言データも取り上げながら、標準語のみを対象とする従来の文法研究が看過してきた特徴を明らかにする。研究テーマをどのように設定するか、またそれをどのように分析していくかなど、研究方法や分析手順を学ぶこともこの授業の目的の一つである。   | 西暦偶数年度開講。<br>02DT961と同一。<br>対面 |
| OABAG71 | 中国語学B  | 2 | 1.0 | 1・2 |     |    |        | 中国語文法研究をおこなううえで、必ず通読し理解しておくべき基礎文献を演習形式で読み進めていく。品詞分類、語順、主題、アスペクト、モダリティ、ウォイス、ダイクシスなど中国語の個性が色濃く現れると思われるテーマを取り上げ、中国語文法研究に必要な最低限の知識を身に付けることを目指す。授業では、内容に対する正確な理解が求められるだけではなく、各自が批判的な視点を以て問題点・疑問点を見つけ出し、積極的に議論に参加することが求められる。  | 西暦偶数年度開講。<br>02DT962と同一。<br>対面 |
| OABAG72 | 中国語学C  | 1 | 1.0 | 1・2 | 春AB | 木2 | 佐々木 勲人 | 日本と中国語の対照研究に関する論文を読み進めながら、中国語文法の諸問題について考える。具体的な研究の方法論を学ぶこともこの授業の目標の一つである。   | 西暦奇数年度開講。<br>対面<br>教室 人社A203   |
| OABAG73 | 中国語学D  | 1 | 1.0 | 1・2 | 秋AB | 木2 | 佐々木 勲人 | 日中対照研究に関する論文を読み進めながら、中国語文法の諸問題について考える。具体的な研究の方法論を学ぶこともこの授業の目標の一つである。  | 西暦奇数年度開講。<br>対面<br>教室 人社A203   |
| OABAG76 | 韓国語学A  | 2 | 1.0 | 1・2 | 春AB | 木2 | 金 仁和   | 現代韓国語の音韻、形態構造、語彙、文法、表現、統語などの言語分析の諸分野だけに限らず、文章・論理構造、談話理解、言語コミュニケーションなどの言語運用の諸分野まで、現代韓国語が持っている個性を概論的に考察する。また、日本語との対照を通して、言語の普遍性と個別性をより深く理解する。   | 西暦奇数年度開講。<br>02DT965と同一。<br>対面 |
| OABAG77 | 韓国語学B  | 2 | 1.0 | 1・2 | 秋AB | 木2 | 金 仁和   | 言語表現の分析には、その表現がどのような「視点」を取りながら意味を表しているのかを考察する方法もある。例えば、日本語は話者・聴者・主体との関係で表現のスピーチレベルが決められる。反面、韓国語は話者と他者との関係でスピーチレベルが決められる。つまり、敬語表現において、日本語は移動的視点を持ち、韓国語は固定的視点を持っていると言える。現代韓国語の時制・指示・授受・慣用表現・あいさつことばなどの表現類型から見られる視点を考察する。また、「感情・主観」の介入程度により視点がどのように変化するかを、対象になる表現の意味を具体的に分類しながら調べる。主テーマになる表現類型は、各年度別に選定する。 | 西暦奇数年度開講。<br>02DT966と同一。<br>対面 |
| OABAG78 | 韓国語学C  | 1 | 1.0 | 1・2 |     |    |        | 構文構造における韓・日両言語の対照を行う。特に、倒置文と省略文を中心として、日・韓の相違点から言語運用における文化的影響を探ることにより、韓国語と韓国文化に関する理解を深める。  | 西暦偶数年度開講。<br>対面                |
| OABAG79 | 韓国語学D  | 1 | 1.0 | 1・2 |     |    |        | 韓国語における辞書での多義語を対象として、意味派生の方向を分析する。分析結果を他言語と比較し、個別言語の特徴を明らかにする。なお、重義の語彙や表現の曖昧さを解決する方法を考える。   | 西暦偶数年度開講。<br>対面                |
| OABAG80 | 言語政策論A | 1 | 1.0 | 1・2 |     |    |        | ロシアや中央アジア諸国などの多民族・多言語社会を事例として、地位計画(言語の法的地位)、実体計画(標準語の整備)、普及計画(言語教育政策他)等の観点から各国の言語政策の現状と課題を検討・考察する。授業では、当該国の言語状況・言語政策に関する研究論文を取り上げ、論点を整理し、議論する。また講義、学生の発表や議論などを通じて、言語政策研究の方法論や分析手法などについての理解も深める。   | 西暦偶数年度開講。<br>02DT971と同一。       |
| OABAG81 | 言語政策論B | 1 | 1.0 | 1・2 |     |    |        | 世界(特に旧ソ連・旧東欧地域)の多民族・多言語国家の言語状況や言語政策に関する研究事例を通して、多言語社会における言語政策の役割について考察する。その上で、比較という観点から日本社会の言語状況・言語政策の実情と課題について検討する。また講義、学生の発表や議論などを通じて、社会に貢献する言語政策研究の研究対象としての新たな可能性を探求する。  | 西暦偶数年度開講。<br>02DT972と同一。       |

|         |           |   |     |     |     |    |                         |  |  |  |
|---------|-----------|---|-----|-----|-----|----|-------------------------|--|--|--|
| OABAG90 | 日本語教育学IA  | 2 | 1.0 | 1・2 |     |    |                         |  | 日本語教育学分野の論文講読および発表者・受講生間の討論を通じ、クリティカルに物事を捉える基礎的な力を身につける。具体的には、日本語教育の論文のうち、とりわけ日本語教育の実践（学習者ニーズ、教授法、シラバス、スタンダード、海外の日本語教育研究など）についての議論を通して、日本語教育の方法学や、学習者や教育実践を実証的に捉え分析する手法、論文の書き方、について学ぶ科目である。  | 西暦偶数年度開講。<br>02DT975と同一。<br>対面                                   |
| OABAG91 | 日本語教育学IB  | 2 | 1.0 | 1・2 |     |    |                         |  | 日本語教育の研究のうち、とりわけ対象別日本語教育（Japanese for Special Purposes : JSP）についての研究を取り上げ、日本語教育研究の方法や、学習者や教育実践を実証的に捉え分析する手法、論文の書き方、について学ぶ科目である。  | 西暦偶数年度開講。<br>02DT976と同一。<br>対面                                   |
| OABAG92 | 日本語教育学IIA | 2 | 1.0 | 1・2 | 春AB | 木3 | 田中 祐輔                   |  | 日本語教育に関する研究のうち、とりわけ教材教具について扱う文献（教材目録、掲載語彙、掲載文型、教材開発、教材分析、教科書コーパス、既往研究レビューなど）についての議論を通じ、日本語教育研究の方法や、日本語教育実践の実証的分析手法を学び、受講生自身の研究への応用を検討する。この授業を通して受講生は、日本語教育研究の方法論に関する知見を得るとともに、論文を批判的にレビューする方法や、自身の研究の位置付けの把握と自身の問題意識に基づく分析を行う上で方法論を学ぶことができる。 | 西暦奇数年度開講。<br>02DT977と同一。<br>対面                                   |
| OABAG93 | 日本語教育学IIB | 2 | 1.0 | 1・2 | 秋AB | 木3 | 田中 祐輔                   |  | 日本語教育の研究のうち、とりわけ対象別日本語教育研究（Japanese for Special Purposes : JSP）についての研究を取り上げ、日本語教育研究の方法や、学習者や教育実践を実証的に捉え分析する手法、論文の書き方、について学ぶ科目である。この授業を通して受講生は、日本語教育研究の手法に関する知見を得るとともに、論文レビューをはじめ、資料を批判的に捉え、自身の研究の位置付けを把握するための方法論を学ぶことができる。                   | 西暦奇数年度開講。<br>02DT978と同一。<br>対面                                   |
| OABAG96 | 外国語教育学A   | 2 | 1.0 | 1・2 |     |    |                         |  | 本授業では、言語能力や言語知識を考察対象とする言語学を基盤とした第二言語習得研究の諸相について、特に文法習得、音声習得について概観する。習得が困難なもの、中間言語の発達、音声習得とその認知的手がかりなどを主に扱う。今学期は特に母語の転移と普遍的知識へのアクセスなどを扱う。   | 西暦偶数年度開講。<br>02DT979と同一。<br>教室は人社A520                            |
| OABAG97 | 外国語教育学B   | 2 | 1.0 | 1・2 |     |    |                         |  | 本授業では、言語能力や言語知識を考察対象とする言語学を基盤とした第二言語習得研究の諸相について、特に文法習得、音声習得について概観する。習得が困難なもの、中間言語の発達、音声習得とその認知的手がかりなどを主に扱う。今学期は特に研究手法やデータ収集の仕方に焦点を当てる。   | 西暦偶数年度開講。<br>02DT980と同一。<br>対面<br>教室は人社A520                      |
| OABAG98 | 外国語教育学C   | 1 | 1.0 | 1・2 | 春AB | 月6 | 小野 雄一, 矢澤翔              |  | 本授業では、言語能力や言語知識を考察対象とする言語学を基盤とした第二言語習得研究の諸相について、特に文法習得、音声習得について概観する。習得が困難なもの、中間言語の発達、音声習得とその認知的手がかりなどを主に扱う。今学期は特にリサーチメソッドを中心に扱う。   | 西暦奇数年度開講。<br>対面<br>人社棟A520                                       |
| OABAG99 | 外国語教育学D   | 1 | 1.0 | 1・2 | 秋AB | 月6 | 小野 雄一, 矢澤翔              |  | 本授業では、言語能力や言語知識を考察対象とする言語学を基盤とした第二言語習得研究の諸相について、特に文法習得、音声習得について概観する。習得が困難なもの、中間言語の発達、音声習得とその認知的手がかりなどを主に扱う。今学期は主に文法習得や音声習得研究における各種検定の方法と結果の報告の仕方に重点をおく。  | 西暦奇数年度開講。<br>対面<br>人社棟A520                                       |
| OABAGA0 | 言語情報論A    | 2 | 1.0 | 1・2 |     |    |                         |  | 言語研究を行うにあたって理解しておくべきICT(情報コミュニケーション技術)の基礎的な知識・技能の習得を目的とした演習を行う。  | 西暦偶数年度開講。<br>02DT981と同一。<br>対面<br>状況によってはオンライン(同時双方向)に変更の可能性がある。 |
| OABAGA1 | 言語情報論B    | 2 | 1.0 | 1・2 | 春AB | 火3 | 石田 尊, 小野 雄一, 和氣 愛仁, 堤智昭 |  | 言語研究をより深めるためのICT(情報コミュニケーション技術)活用法について、履修者の専門分野・問題意識に基づいた実践的な演習を行う。  | 西暦奇数年度開講。<br>02DT982と同一。<br>対面<br>状況によってはオンライン(同時双方向)に変更の可能性がある。 |
| OABAGA2 | コーパス言語学   | 1 | 1.0 | 1・2 | 秋AB | 木5 | 今田 水穂, 菅野倫匡             |  | データ基盤的な言語研究の方法について学ぶ。日本語の共時的・通時的な言語資源を対象として、研究デザイン、データの収集と構築、量的・質的な分析方法、情報処理の技術について講義、実習を行う。   | 対面   |

|         |              |   |     |   |     |    |   |   |                                  |
|---------|--------------|---|-----|---|-----|----|---|---|----------------------------------|
| OABAGX0 | プロジェクト演習(1A) | 2 | 2.0 | 1 | 春AB | 応談 | 佐々木 勲人, 大矢俊明, 池田 潤, 橋本 修, 金 仁和, 臼山 利信, 島田 雅晴, 宮腰 幸一, 和田 尚明, 那須 昭夫, 和氣 愛仁, 小野 雄一, 住大 恭康, 石田 尊, 澤田 浩子, 黄 賢暉, 金谷 優, 田川 拓海, 山村 崇斗, 矢澤 翔, 今田 水穂, 納谷 亮平, 菅野 倫匡, 菊池 そのみ, 田中 祐輔, 宮川 創, 堤 智昭, 山岡 翔 | 言語学サブプログラムにおいて修士論文を作成する1年次生が複数の教員から成る指導グループの指導のもと、教員と学生で議論を行いながら、言語研究における研究倫理、言語研究の諸側面に関する理解を深めるとともに、言語研究全体の中での位置づけを考えながら、修士論文の構想を深める。            | オンライン(対面併用型)<br>指導教員の指示に従ってください。 |
| OABAGX1 | プロジェクト演習(1B) | 2 | 2.0 | 1 | 秋AB | 応談 | 佐々木 勲人, 大矢俊明, 池田 潤, 橋本 修, 金 仁和, 臼山 利信, 島田 雅晴, 宮腰 幸一, 和田 尚明, 那須 昭夫, 和氣 愛仁, 小野 雄一, 住大 恭康, 石田 尊, 澤田 浩子, 黄 賢暉, 金谷 優, 田川 拓海, 山村 崇斗, 矢澤 翔, 今田 水穂, 納谷 亮平, 菅野 倫匡, 菊池 そのみ, 田中 祐輔, 宮川 創, 堤 智昭, 山岡 翔 | 言語学サブプログラムにおいて修士論文を作成する1年次生が複数の教員から成る指導グループの指導のもと、教員と学生で議論を行いながら、構想に基づき先行研究を検討し、先行研究における課題を明らかにし、自身の研究を先行研究の中で位置づけることによって、研究課題を具体化し、修士論文のテーマを定める。 | オンライン(対面併用型)<br>指導教員の指示に従ってください。 |
| OABAGX2 | プロジェクト演習(2A) | 2 | 2.0 | 2 | 春AB | 応談 | 佐々木 勲人, 大矢俊明, 池田 潤, 橋本 修, 金 仁和, 臼山 利信, 島田 雅晴, 宮腰 幸一, 和田 尚明, 那須 昭夫, 和氣 愛仁, 小野 雄一, 住大 恭康, 石田 尊, 澤田 浩子, 黄 賢暉, 金谷 優, 田川 拓海, 山村 崇斗, 矢澤 翔, 今田 水穂, 納谷 亮平, 菅野 倫匡, 菊池 そのみ, 田中 祐輔, 宮川 創, 堤 智昭, 山岡 翔 | 言語学サブプログラムにおいて修士論文を作成する2年次生が複数の教員から成る指導グループの指導のもと、教員と学生で議論を行いながら、構想に基づき先行研究を検討し、先行研究における課題を明らかにし、自身の研究を先行研究の中で位置づけることによって、研究課題を具体化し、修士論文のテーマを定める。 | オンライン(対面併用型)<br>指導教員の指示に従ってください。 |
| OABAGX3 | プロジェクト演習(2B) | 2 | 2.0 | 2 | 秋AB | 応談 | 佐々木 勲人, 大矢俊明, 池田 潤, 橋本 修, 金 仁和, 臼山 利信, 島田 雅晴, 宮腰 幸一, 和田 尚明, 那須 昭夫, 和氣 愛仁, 小野 雄一, 住大 恭康, 石田 尊, 澤田 浩子, 黄 賢暉, 金谷 優, 田川 拓海, 山村 崇斗, 今田 水穂, 納谷 亮平, 矢澤 翔, 菅野 倫匡, 菊池 そのみ, 田中 祐輔, 宮川 創, 堤 智昭, 山岡 翔 | 言語学サブプログラムにおいて修士論文を作成する2年次生が複数の教員から成る指導グループの指導のもと、教員と学生で議論を行いながら、論文の構成、結論等を決定し、最終的な修士論文の作成を行う。  | オンライン(対面併用型)<br>指導教員の指示に従ってください。 |

|         |              |   |     |   |     |    |   |  |                                  |
|---------|--------------|---|-----|---|-----|----|---|--|----------------------------------|
| OABAGY0 | プロジェクト実習(1A) | 3 | 1.0 | 1 | 春AB | 応談 | 佐々木 勲人, 大矢俊明, 池田 潤, 橋本 修, 金 仁和, 臼山 利信, 島田 雅晴, 宮腰 幸一, 和田 尚明, 那須 昭夫, 和氣 愛仁, 小野 雄一, 住大 恭康, 石田 尊, 澤田 浩子, 黄 賢暉, 金谷 優, 田川 拓海, 山村 崇斗, 矢澤 翔, 今田 水穂, 納谷 亮平, 菅野 倫匡, 菊池 そのみ, 田中 祐輔, 宮川 創, 堤 智昭, 山岡 翔 | 言語学サブプログラムにおいて修士論文を作成する1年次生を対象に、複数の教員から成る指導グループから、研究会発表(またはそれに準じるもの)のテーマ設定、構成に関する指導を受け、プレゼンテーションの方法を実際に学ぶ。 | オンライン(対面併用型)<br>指導教員の指示に従ってください。 |
| OABAGY1 | プロジェクト実習(1B) | 3 | 1.0 | 1 | 秋AB | 応談 | 佐々木 勲人, 大矢俊明, 池田 潤, 橋本 修, 金 仁和, 臼山 利信, 島田 雅晴, 宮腰 幸一, 和田 尚明, 那須 昭夫, 和氣 愛仁, 小野 雄一, 住大 恭康, 石田 尊, 澤田 浩子, 黄 賢暉, 金谷 優, 田川 拓海, 山村 崇斗, 今田 水穂, 納谷 亮平, 矢澤 翔, 菅野 倫匡, 菊池 そのみ, 田中 祐輔, 宮川 創, 堤 智昭, 山岡 翔 | 言語学サブプログラムにおいて修士論文を作成する1年次生を対象に、複数の教員から成る指導グループから、研究会発表(またはそれに準じるもの)のテーマ設定、構成に関する指導を受け、プレゼンテーションの方法を実際に学ぶ。 | オンライン(対面併用型)<br>指導教員の指示に従ってください。 |
| OABAGY2 | プロジェクト実習(2A) | 3 | 1.0 | 2 | 春AB | 応談 | 佐々木 勲人, 大矢俊明, 池田 潤, 橋本 修, 金 仁和, 臼山 利信, 島田 雅晴, 宮腰 幸一, 和田 尚明, 那須 昭夫, 和氣 愛仁, 小野 雄一, 住大 恭康, 石田 尊, 澤田 浩子, 黄 賢暉, 金谷 優, 田川 拓海, 山村 崇斗, 矢澤 翔, 今田 水穂, 納谷 亮平, 菅野 倫匡, 菊池 そのみ, 田中 祐輔, 宮川 創, 堤 智昭, 山岡 翔 | 言語学サブプログラムにおいて修士論文を作成する2年次生を対象に、複数の教員から成る指導グループから、研究会発表(またはそれに準じるもの)のテーマ設定、構成に関する指導を受け、プレゼンテーションの方法を実際に学ぶ。 | オンライン(対面併用型)<br>指導教員の指示に従ってください。 |
| OABAGY3 | プロジェクト実習(2B) | 3 | 1.0 | 2 | 秋AB | 応談 | 佐々木 勲人, 大矢俊明, 池田 潤, 橋本 修, 金 仁和, 臼山 利信, 島田 雅晴, 宮腰 幸一, 和田 尚明, 那須 昭夫, 和氣 愛仁, 小野 雄一, 住大 恭康, 石田 尊, 澤田 浩子, 黄 賢暉, 金谷 優, 田川 拓海, 山村 崇斗, 矢澤 翔, 今田 水穂, 納谷 亮平, 菅野 倫匡, 菊池 そのみ, 田中 祐輔, 宮川 創, 堤 智昭, 山岡 翔 | 言語学サブプログラムにおいて修士論文を作成する2年次生を対象に、複数の教員から成る指導グループから、研究会発表(またはそれに準じるもの)のテーマ設定、構成に関する指導を受け、プレゼンテーションの方法を実際に学ぶ。 | オンライン(対面併用型)<br>指導教員の指示に従ってください。 |